

平成21年度の活動について



5月29日 第1回協議会

平成21年度の事業計画について協議し、モデル施策の実施や地域フォーラムの開催について、決定しました。

モデル施策は、昨年度からの継続として、芳賀町イベントに合わせた臨時バスの運行、市貝町「芝ざくら祭り」時の渋滞緩和策の検討の2つを計上し、地域フォーラムは、真岡市で開催することとしました。

また、JR宇都宮駅の利用環境整備や3社共通系統番号について、引き続き、ワーキンググループで検討を進めていくこととしました。



《JR宇都宮駅構内の様子》

8月15日 芳賀町モデル施策(イベントに合わせた臨時バスの運行)

モデル施策の内容

昨年に引き続き、JRバス関東による臨時バスを運行するとともに、これをPRするチラシを作成、配布し、公共交通による来場を呼びかけました。

モデル施策の成果

約90人(昨年比53名増)が利用しました。毎年、利便性を考慮したダイヤ編成を行い、PRしてきたことから、利用促進の効果が着実に上がっています。今後は、芳賀町において、独自事業として、継続を検討していきます。



《臨時バスPRチラシ》

12月18日 第2回協議会

ワーキンググループの検討状況を報告しました。JR宇都宮駅利用環境整備検討WGでは、次のような成果が挙げられました。

① 観光案内所の案内看板表記の拡大

宇都宮観光コンベンション協会により、観光案内所をより分かりやすくするため、宇都宮市のおもてなしの色に合わせ、看板表記を拡大しました。

② バス有人案内の試験実施

関東自動車により、7月の1か月間、

観光案内所内に従業員を派遣し、バスに関する案内を試験実施しました。利用者は延べ1535人で、若年層(おおむね30代以下)の利用が44パーセントと多いことが分かりました。今後については、観光案内所職員によるバス案内も熟達していることから、駅2階でのバス案内は観光案内所に任せ、時刻改正の迅速な提供などの連携策をより強化していくこととしました。(バス事業者によるバスターミナルでのバス案内については、今後も継続していきます。)



《JR宇都宮駅観光案内所》

また、市貝町「芝ざくら祭り」時渋滞緩和策検討WGでは、来年度芝ざくら祭り時にシャトルバスを試験運行する方向で議論が進んでいる状況を報告し、承認を得ました。

3月17日 真岡市地域フォーラム

- ・名称 公共交通と「安心」のまちづくり
～市民目線で考える新しい公共交通～
- ・日時 平成22年3月17日(水)
- ・場所 真岡市 真岡市民会館 小ホール
- ・内容 基調講演「地域公共交通の行方」
講師 宇都宮大学工学部教授 永井 護 氏
- ・参加者 144名

宇都宮大学工学部教授の永井護さんによる基調講演を行い、「持続可能な地域交通の実現には、地域住民＝利用者、交通事業者、行政の連携が必要であること」「真岡市の地域特性と課題」「真岡市で取り組んでいる地域公共交通活性化協議会の運営と進め方」などについてお話しいただきました。



《フォーラムPRチラシ》

3月26日 第3回協議会

モデル施策や地域フォーラム、ワーキンググループの実施結果について、報告を行いました。

市貝町「芝ざくら祭り」時渋滞緩和策検討WGでは、芝ざくら祭り時の渋滞緩和策を検討してきましたが、協議会において、平成22年4月24日(土)に真岡鉄道市塙駅～市貝町役場～芝ざくら公園を結ぶシャトルバスを試験運行(事前予約制)することとしました。



《JR宇都宮駅改札口付近床面表示》

したことから、今後は、宇都宮市が「宇都宮交通戦略」に基づき、関係者と連携を図りながら進めていくこととしました。

平成21年度は、引き続き、新たな利用促進策や地域フォーラムに取り組むほか、県央地域の市町・交通事業者の公共交通に関する取組状況の情報発信に取り組むこととしました。



《臨時シャトルバス運行PRチラシ》

JR宇都宮駅利用環境整備検討WGでは、JR宇都宮駅改札口付近の床面案内表示の刷新について、報告しました。(実施日は平成22年3月31日)

なお、3社共通系統番号については、議論を進めていく中で、JR宇都宮駅における情報提供の全体的なあり方について、更に検討する必要が生